

多様なニーズに挑む 岡山協立病院の真価

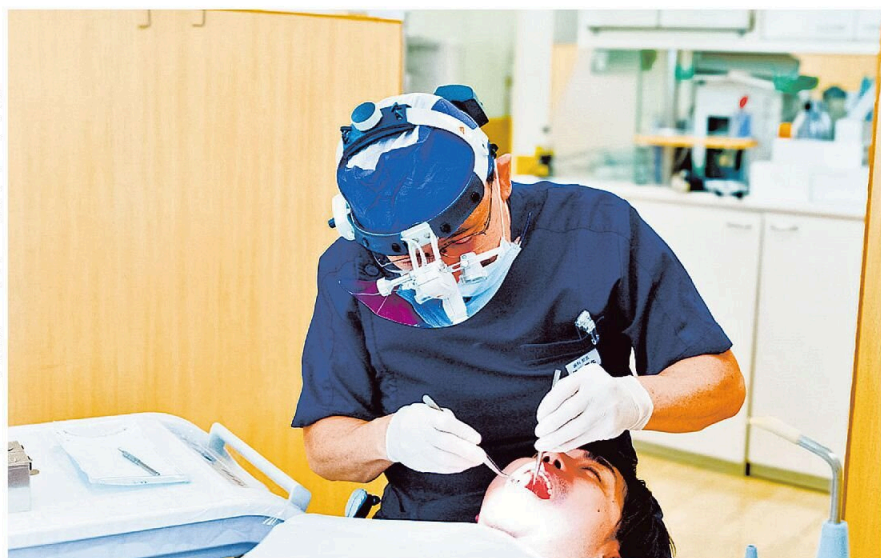
当院の歯科は、麻酔科と連携し、手術を受ける患者さまの「口腔から始まる安全」を守る取り組みを行っています。消化器系手術にとどまらず、骨折や整形外科手術の患者さまにも周術期口腔機能管理を積極的に実施しています。

最近では年間約120件の依頼があり、その半数は整形外科からの紹介です。術前から歯科が関与することで、術後肺炎や誤嚥性肺炎の発生が減少し、平均在院日数の短縮にもつながっていることを実感しています。



岡山協立病院歯科部長 伊藤 真午

③ 周術期口腔ケアと多職種連携の最前線



さらに、歯科衛生士による入院中の口腔ケアは年間で延べ1700件に上り、その予防効果の大きさも実感しています。当院では医師・看護師・リハビリ職など、全ての職種がフラット

に連携する文化が根付いており、歯科もその一翼を担っています。まさに「医科と歯科のバリアフリー」による多職種連携の体制こそが、当院歯科の強みである「安全・安心な医療」を

支える土台です。

■嚥下機能回復とリハビリの第一歩

嚥下機能が低下した患者さまもできるだけ「口から食べられる」ように、歯科が積極的に関



医科、歯科の治療を支える多職種のスタッフ

与しています。嚥下内視鏡検査（VE）には歯科医師が年間40件ほど直接介入し、口腔ケアによる脱感作も通じて嚥下機能回復を促進しています。必要に応じて義歯治療も行い、言語聴覚士による嚥下リハビリへとスムーズにつながります。

私たちは「一歩ずつ確実に改善を積み重ねる」ことを重視し、現実的かつ患者中心のアプローチを行っています。さらに週1回が多職種チーム回診にも参加し、事前診察で得た所見を共有することで、チーム全体の治療戦略を支えています。こうした連携は、退院後の生活の質向上にも直結しています。

■口腔の健康から始まる全身の健康づくり

高齢化が進む中、口腔機能の低下（オーラルフレイル）は全身の衰えの入り口といわれています。当院の歯科では「磨いている」と「磨けている」の違いに着目し、歯間ブラシの正しい使い方や、一本ずつ丁寧に磨くセルフケアを指導しています。

全身状態や服薬情報を把握した上で安全に配慮した治療を提供しています。入院中の抜歯や点滴治療も院内で完結できる体制を整え、他院では難しい総合的な口腔管理を実現しています。これこそが「病院歯科ならではの強み」であり、「医科と歯科のバリアフリー」を可能にする当院だからこそ、安心・安全な医療を支えることができると思っています。

今後は病棟との連携をさらに強化し、慢性期の支援も積極的に行い、外来では医療DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した質の高い医療提供を目指します。「病気になる前もなっから安心してかかる歯科」を合言葉に、地域の皆さまの口腔の健康と全身の健康の維持増進に努めたいと思います。

私たちの使命は、地域の方々に「食べることは一生であり、口腔ケアは健康の第一歩」であることを伝え、安心できる歯科医療を届けることです。これからも病院歯科として、さまざまな取り組みを行い、地域医療に貢献できたらと考えています。

岡山協立病院（086-272-2121）